

ようこそ **クク井遺跡発掘調査**
げんちせつめいかい
現地説明会 平成 27 年 6 月 20 日 (土)



はじめに

しもへいぐんやまだまちふなこしだい10ちわり

クク井遺跡は下閉伊郡山田町船越第10地割に所在する遺跡です。
4月から防災集団移転促進事業に関連して山田町から委託を受け、遺跡の一部を発掘調査してきました。**本日はその成果を説明いたします。**

調査機関：(公財) 岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター
調査面積：4,800㎡ 調査期間：平成27年4月6日～7月中旬(予定)

クク井遺跡って？

クク井遺跡は船越半島の付け根に位置し、標高32～23mの尾根上から南向き斜面地に立地します。

平成14年にみつかった遺跡ですが、その際は、縄文土器片と石器を作る際に出る剥片(フレイク)しか出土しておらず、遺跡の内容はよく分かりませんでした。



調査の風景(遺跡をのぞむ)

クク井遺跡はどんな遺跡？

今回の調査成果でクク井遺跡は大きく2つの性格をもつ遺跡である事が分かりました。

1. 平安時代：斜面地にひろがる鍛冶工房群(鉄を加工する工場)

竪穴住居跡	3棟	土師器・須恵器	大コンテナ0.5箱
工房跡	5棟	鉄製品(袋状鉄斧・釘・鉄鏃など)	
土坑	7基	鉄生産に関わるもの(羽口・金床石・鉄滓)	
性格不明遺構(土採り穴?)	1箇所		
2. 縄文時代：縄文時代前期/中期の集落(ムラ)

竪穴住居跡	4棟	縄文土器(前期・中期)	大コンテナ8箱
	(前期3棟・中期1棟)	石器	中コンテナ4箱
土坑	3基		
包含層	1箇所		



工房跡から出土した羽口



工房跡から出土した袋状鉄斧



竪穴住居跡から出土した縄文土器

平安時代

調査範囲の最も高い北東側から南西側の斜面にかけて、工房跡と竪穴住居跡が広がります。

工房跡は地形に沿って立地しています。横長の10×4m程度の規模で竪穴住居跡と同様に地面を掘り込んで作られています。床面には真っ赤に燃えた「炉」が複数ついています。羽口や金床石といった鉄を加工する(鍛冶)の道具や鉄滓(鍛冶の際に排出する鉄の残りカス)が残っており、これらの工房跡は鍛冶工房跡であることが想像できます。

竪穴住居跡は尾根上で2棟、斜面下で1棟見つかりました。尾根上の2棟にはカマドの他に鍛冶炉と考える焼土が見られます。斜面下の1棟は鍛冶炉は見られませんが、小型で、人が住むにはやや小さすぎる大きさです。これら3棟の竪穴住居跡は住むためのものではなく、作業用や、作業の合間の休憩用に利用されたのではないかと推測されます。

これらのことから平安時代、クク井遺跡は鍛冶工房群がひろがる鉄の加工場であったと考えられます。



工房跡



工房跡の鍛冶炉



竪穴住居跡

縄文時代

南向き斜面の下方から「大型住居」と呼ばれる全長12m、幅4.5mの大きな竪穴住居跡(家のあと)が見つかりました。地面を深く掘り込んで作られた大型住居は床面にたくさん火を焚いた痕跡があり、複数の家族が住む家とも考えられています。住居内からみつかった土器の特徴から、前期のものである事が分かっており、縄文時代前期の小さなムラが広がっていたことが想像されます。

また石囲炉と呼ばれる囲炉裏を伴う、中期の竪穴住居跡も1棟見つかっており、中期にもムラがあったことが推測されます。

他に調査範囲の最も低い場所からたくさんの縄文土器や石器が出土しており、なかには「玦状耳飾り」とよばれる石製のイヤリングも見つかっています。



大型住居



縄文土器



玦状耳飾り

